

分野:器官系統病態学

主科目 副科目	腎臓病学 Nephrology	DM_1405	区分	選択必修	授業形態	演習 (講義・実習含む)
------------	--------------------	---------	----	------	------	-----------------

担当	教 授	准 教 授	講 師	助 教	客員教授・その他
板橋	◎柴田 茂 藤垣 嘉秀		田村 好古 山崎 修	新井 繁幸	
ちば	◎寺脇 博之	小林 政司		伊藤 靖子	花岡 一成 (客員教授)
溝口	◎松井 克之	河原崎 宏雄		内田 大介	

	腎臓病学Ⅰ (1年次)				腎臓病学Ⅱ (2年次)				腎臓病学Ⅲ (3年次)			
	単位	4単位	配当年次	1年・通年	単位	4単位	配当年次	2年・通年	単位	4単位	配当年次	3年・通年
概 要	腎臓の基本的な働きを発生学的視点および比較生理学的視点から学び、腎臓障害のときの症状と所見、診断と治療、さらには腎代替療法の実践を講義・演習・実習を通して習得する。腎の基本的機能について理解を深める。代表的な腎の病理所見について診断できる。腎疾患の病理所見、組織診断法のための手技(針式腎生検法)について習得する、診療・研究に必要な文献の検索を適正に遂行し、必要な情報を得ることができる。				腎疾患の病理所見、組織診断法のための組織作成(蛍光抗体法、電子顕微鏡検査)と腎炎、ネフローゼ症候群の実践的な診療を講義・演習・実習を通して習得する。CKDの集学的治療を行うことができる。水電解質、酸塩基平衡の異常について診断、治療ができる。高血圧の原因検索、病態生理、治療ができる。急性腎不全の診断、内科的治療、血液浄化療法の適応について行うことができる。				血液透析療法全般にわたる基本的手技が実践できる。他科領域における血液浄化療法の理論と実際について習得できる。卒前教育、卒後教育を指導的立場で担当できる。必要な統計学を学び、腎疾患または関連分野で得られたデータを客観的に正しく解釈し、適切な考察を加えることができる。さらにはチーム医療と地域連携の重要性について理解し実践する。上記について講義・演習・実習を通して習得する。			
到達目標	① 腎障害のときの症状と所見を説明し、診断と治療ができる。 ② 腎代替療法の理論を説明できる。 ③ 代表的な腎の病理所見について診断できる。 ④ 腎の組織診断法についての手技(針式腎生検法)ができる。				① 腎生検組織(蛍光抗体法、電子顕微鏡検査)について説明することができる。 ② 腎炎、ネフローゼ症候群の実践的な診療を行うことができる。 ③ CKDの集学的治療を行うことができる。 ④ 水電解質・酸塩基平衡の異常について診断、治療ができる。 ⑤ 高血圧の原因検索、病態生理、治療ができる。 ⑥ 急性腎不全の診断、内科的治療、血液浄化療法の適応について行うことができる。				① 血液透析療法全般にわたる基本的手技ができる。 ② 他科領域における血液浄化療法の理論と実際について説明できる。 ③ 卒前教育、卒後教育を指導的立場で担当できる。 ④ 臨床腎臓病学における最新の情報を生産、発信できる。 ⑤ 学会発表できる。			
事前事後学修	卒前卒後にうけた座学の教育内容はあらためて復習し、基本用語の理解を深めておく。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。				関連する種々のガイドラインについて復習しておく。研究の基礎心得として「At the Bench」を通読しておく。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。				研究データの解析に用いる統計解析について知識を習得し、実際の例で演習しておく。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。			
評価方法	受講態度 20% 担当医としての能力 40% 学会発表等 40%				受講態度 20% 担当医としての能力 40% 学会発表等 40%				受講態度 20% 担当医としての能力 40% 学会発表等 40%			

■主な演習(講義・実習含む)

演習	腎臓病学Ⅰ (1年次)	腎臓病学Ⅱ (2年次)	腎臓病学Ⅲ (3年次)
板橋	曜日 9 : 00 ~ :	曜日 9 : 00 ~ :	曜日 9 : 00 ~ :
	毎日:血液浄化療法学実習/適宜:腎生検実習	毎日:血液浄化療法学実習/適宜:腎生検実習	毎日:血液浄化療法学実習/適宜:腎生検実習
	火 曜日 13 : 00 ~ 16 : 00	火 曜日 16 : 30 ~ :	月 曜日 13 : 00 ~ 16 : 00
	臨床腎臓病学	臨床腎臓病病理学演習	血液浄化療法学
	火 曜日 16 : 30 ~ :	木 曜日 9 : 00 ~ 12 : 00	火 曜日 16 : 30 ~ :
ちば	臨床腎臓病病理学演習	腎生検組織の見かた	臨床腎臓病病理学演習
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	毎日:血液浄化学演習	毎日:血液浄化学演習	毎日:血液浄化学演習
	火 曜日 17 : 00 ~ 18 : 00	火 曜日 17 : 00 ~ 18 : 00	火 曜日 17 : 00 ~ 18 : 00
	リサーチミーティング	リサーチミーティング	リサーチミーティング
溝口	金 曜日 17 : 00 ~ :	金 曜日 17 : 00 ~ :	金 曜日 17 : 00 ~ :
	腎臓病病理学演習	腎臓病病理学演習	腎臓病病理学演習
	曜日 9 : 00 ~ 14 : 00	曜日 9 : 00 ~ 14 : 00	曜日 9 : 00 ~ 14 : 00
	(毎日) 血液浄化学	(毎日) 血液浄化学	(毎日) 血液浄化学
	火 曜日 15 : 00 ~ 17 : 00	火 曜日 15 : 00 ~ 17 : 00	火 曜日 10 : 00 ~ 12 : 00
溝口	臨床腎臓病学	臨床腎臓病学	実験腎臓病学
	水 曜日 9 : 00 ~ 12 : 00	水 曜日 9 : 00 ~ 12 : 00	水 曜日 9 : 00 ~ 12 : 00
	腎臓病学演習	腎臓病学演習	腎臓病学演習

教科書・参考書

医学生時代のシラバス・教科書・参考書、関連ガイドライン、At the Bench、統計学関連教科書。

その他履修上の注意事項

- ① 第1、2学年にあつては、指導医のもと病棟主治医としてベッドサイド教育、他科からのコンサルテーションを履修する。
 - ② 第2学年にあつては、第1学年の内容に加え、病棟以外に外来実習(半日/週)を指導医のもとに履修する。
 - ③ 第3学年にあつては、原則病棟主治医を離れ、講義、演習、実習、外来実習にて臨床経験を継続するとともに、指導医のもとに実験/研究に従事し学会発表、研究論文を作成する。
 - ④ すべての学年において、講義・実習・演習に参加して、発表する。
- 試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

関連科目	副科目	総合内科コースにて講義・実習・演習を履修する。総合内科以外の専門内科、人体病理学・病理診断学、生理学系、分子生体機能学など関連領域を1科目以上、講義・演習コースにて履修する。
	共通科目	

関連する専門医資格

日本内科学会 総合内科専門医(www.naika.or.jp)
 日本腎臓学会 腎臓専門医(www.jsn.or.jp)
 日本透析医学会 透析専門医(www.jsdt.or.jp)
 日本高血圧学会 高血圧専門医(www.jpnh.org)

キャリアパス(モデルコース)

